

コシヒカリの穂ばらみ期前後の倒伏診断

1 はじめに

本県の主力品種であるコシヒカリは倒伏しやすく、これまでも幼穂形成期の倒伏診断によって穂肥の加減や倒伏軽減剤の散布により倒伏対策を行ってきました。一方、施肥については基肥一括肥料の普及により、穂肥を施用することはほとんどなくなり、穂肥の加減による倒伏対策ができなくなりました。コシヒカリは稈長が長くなると倒伏しやすく、稈長は節間伸長期（幼穂形成期から出穂期）の天候の影響を強く受ける（図1）ため、幼穂形成期時点の倒伏診断では稈長の長さを予測するには不十分です。そこで、穂ばらみ期前後（出穂5～14日前）に診断することで、今まで以上の精度で倒伏診断し、その対策をとることができます。

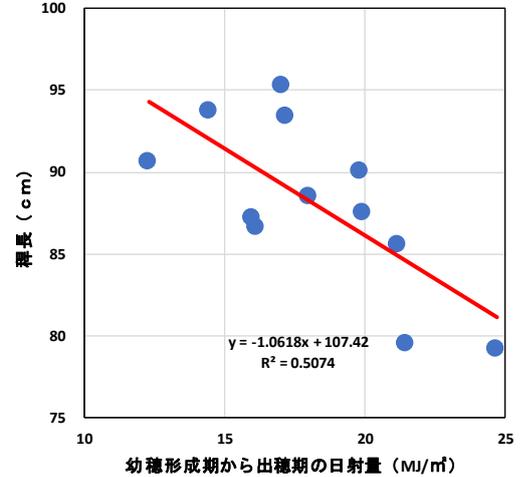


図1 節間伸長期の日射量と稈長の関係

2 技術内容

コシヒカリは穂が重たく、稈長が長いと倒伏します（図2）。穂の重さは出穂期以降の天候によって変わるため、穂が重いと仮定し、収量や品質に大きく影響しない倒伏程度3以下とするためには稈長を87cmまでにする必要があります。一方、第4、5節の長さとして稈長は相関性が高いので、第4節が伸び切った穂ばらみ期前後（出穂5～14日前、幼穂長で5～17cm）に、この長さを測り、長さが14cm以上であれば、倒伏軽減剤を散布することで、大きな倒伏を避けることができます。

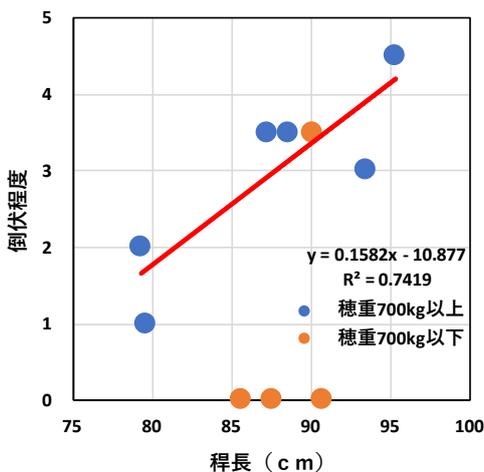


図2 稈長と倒伏程度の関係

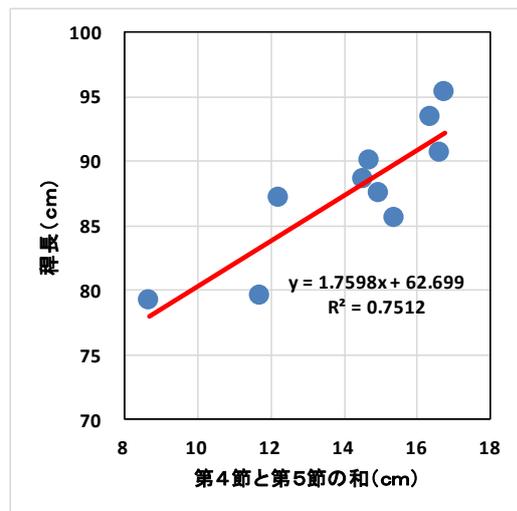


図3 第4、5節の長さとの関係

3 技術の効果コスト

重大な倒伏を避けることができるので、登熟向上による収量や品質向上が期待できます。

また、収穫ロスや作業性の向上つながります。

[その他]

研究課題名：気象対策試験

研究期間：平成22年～平成30年

研究担当者：農試 企画・指導部 山口